

哲學研究

第四十五卷 第十一册

第五百二十九號

昭和五十年一月二十五日發行

科學における相對主義と

進歩の問題について

……
クルト・ヒュブナー
神野 慧一郎 譯

—— 亡きイムレ・ラカトスを念頭に ——

カントに於ける様相の問題

(一) …… 有 福 孝 岳

—— 余語、東洋的反省 ——

カントにおける認識の客観性

…… 土 屋 盛 茂

「歴史の説明」について

…… 丸 山 高 司

京都大學文學部内

京都哲學會
本町四丁目左京区京都市
京都大學文學部
國語學國文學研究室

京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために左の事業を行う
 - (一) 會誌「哲學研究」を發行する
 - (二) 毎年公開講演會を開く
 - (三) 隨時研究會を開く
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく
委員は京都大學文學部哲學科教官及び委員會において推薦したものに委嘱する
- 一、本會に賛助員若干名をおく 賛助員は會員の中から委員會が推薦する
- 一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けない 學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することができる
- 一、會員は會費として年二、〇〇〇圓（會誌五冊分を含む）を前納する
- 一、會員は會誌の配布を受け會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、規約の改正は委員會の決定による

京都哲學會役員

委員

池田祐義	柿崎祐一	梶山好能	木曾善三	清水義範	武内義一	田中進一郎	辻村公久	中西裕	服部正裕	藤澤令一	武藤一夫	本吉良治	森口美都男	八木秀夫	山田晶夫	湯淺幸孫	吉岡健二
------	------	------	------	------	------	-------	------	-----	------	------	------	------	-------	------	------	------	------

(丁)

訳者追記 この論文は一九七三年十一月に大阪ゲーテ・インスティトゥートの後援でなされた同じ題の講演に若干加筆されたものである。講演は英語でなされ、本原稿も英語である。

原題 Kurt Hilber: On the Question of Relativism and Progress in Science—in memory of Imre Lakatos.

(筆者 キール大学哲学主任教授)

(訳者 大阪市立大学文学部助教授)

告 子 文 論 号 次

フィヒテにおける構想力の概念……………大峯 顯	ヒュームに於ける「外界」と 「自我」の問題(一)……………田中 進	空間と幾何學(一)……………田村 祐三
-------------------------	--------------------------------------	---------------------

次 目 号 前

探求とロゴス……………水垣 涉	アリストテレスの シュロギスモス體系……………淺野 楢英 ——最近の諸研究によって——	浪漫主義美學についての一考察……………神林 恒道 ——その神話解釋の問題をめぐる——	書評 R. E. Allen: Plato's Euthyphron and the Earlier Theory of Forms…田中 邦夫
-----------------	---	---	---

會 告

一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けません、入會希望の方は京都市左京區吉田京都大學文學部内京都哲學會（振替口座京都四〇三九番 京都哲學會）宛に規定の會費（年二、〇〇〇圓）をお拂込下さい

又會員への會誌送付、バックナンバー購入及び發賣に關する一切は東京都千代田區一番町一七番地創文社（振替口座東京九二四七二番）宛に願います

一、會員の轉居・入退會の事務及び編輯事務の一切は京都哲學會宛に御通知下さい

一、本誌の編輯に關する通信・新刊書・寄贈雜誌等は本會宛にお送り下さい

京 都 哲 學 會

京都市左京區吉田
京都大學文學部内

昭和五十年一月二十日印刷
昭和五十年一月二十五日發行

編輯兼
發行人 京都大學文學部内
京 都 哲 學 會
編輯代表 田 中 進

賣 捌 所 株式會社 創 文 社

久 保 井 理 津 男

東京都千代田區一番町一七番地
振替口座 東京 九二四七二
電話東京二六三一七一〇（代電）

印 刷 所 中 光 印 刷 株 式 會 社

東京都豊島區高田一―二―一四

註 文 規 定

一、會員以外の購讀者の御註及及び廣告掲載に關する件は「創文社」へ御申込下さい

一、本誌の御註文はすべて代金送料共（一部、定價四五〇圓、送料・四〇圓）前金にてお送り下さい

昭和五十年一月二十五日印刷

THE JOURNAL
OF
PHILOSOPHICAL STUDIES
THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XLV

January 1975

No. 11

On the Question of Relativism and Progress in Science

— *In memory of Imre Lakatos* —Kurt Hübner

Zur Problematik der Modalität bei Kant (1)

— *Mit der buddhistischen Reflexion* —

.....Kôgaku Arifuku

Die Objektivität der Erkenntnis bei KantMorishige Tsuchiya

Explanation in History.....Takashi Maruyama

Published by

THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY

(The Kyoto Tetsugaku-Kai)

Kyoto University

Kyoto Japan

定
價
四
五
〇
圓